

茶合は挽茶一人前九分の積りにて、三人前二匁七分入る、器也、茶漏斗、大は櫻、小は柘、茶杓は銀にて桑柄、菊置上ヶ、藥籠、ブタ、革紐は宗全好なり、

茶篩 利休形、櫻木地、

挽溜 むかしは唐物大海を用ひたれども、土の物にては茶入を損じやせんと、利休大茶桶一對

に薄茶を貯ふ、其後元伯極詰の字を甲に朱書して濃茶を分つ、渡茶入甲に極の字あり、薄茶入、甲に詰の字あり、今千家に有之、

挽溜茶桶箱 桐藥籠、ブタ、元伯好、桐サン蓋は原叟好、桐木地、眞溜藥籠、ブタは織部好、略

火吹竹 利休形、サビ竹節ニツ、

臺十能 利休形、鐵臺柄、桑、

炭切溜 檜十文字足、

炭箸 杉の八角、

炭割 鐵のナタ、檜の柄、

掃込 白鳥は右の片羽、鴻はモロ羽、兩様とも客の前にて用ゆ、但し白鳥は老人僧體の者、鴻は上

下著用の者よろし、

座掃 鴻の片羽、勝手物なり、客の前にては不用、中立ニ用ゆ、

塵取 利休形、桐裏に竹のハシ、パミ入る、

懸燈臺 利休形、樂の二枚土器、小の方を用ゆ、總じて燈火に添る楊枝は、坐の内はクロモジ、庭は

杉と、覺ゆべし、

〔茶道要録上主送〕釜之事、同水遣具、

一水遣具之事、大口ト云物アリ、片口ニ似テ、取手ノ無物也、是ニ水ヲ入置釜ニ盛也、尤水ヲ吟味シテ、漉用釜洗ト云アリ、馬蘭ノ根ヲ一束ニ結テ、其切口ニテ釜ヲ洗也、